

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	地域計画の共有促進のための計画枠組みに関する研究
Title(English)	
著者(和文)	石神孝裕
Author(English)	Takahiro Ishigami
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第10700号, 授与年月日:2017年12月31日, 学位の種別:課程博士, 審査員:屋井 鉄雄,中村 芳樹,室町 泰徳,松岡 昌志,那須 聖
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第10700号, Conferred date:2017/12/31, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

論文審査の要旨及び審査員

(2000字程度)

報告番号	乙 第 号	学位申請者	石神 孝裕	
論文審査員	氏 名	職 名	氏 名	職 名
	主査 屋井鉄雄	教授	那須 聖	准教授
	中村芳樹	教授		
	室町泰徳	准教授		
	松岡昌志	准教授		

本論文は「地域計画の共有促進のための計画枠組みに関する研究」と題し、8章で構成されている。第1章「序論」では、我が国の地域づくりにおける中心的課題が、人口増加と市街地の拡大の制御から、防災や環境等も含めた持続可能な地域づくりに変化していることを踏まえ、多種多様な課題を俯瞰的に捉えて目標実現に向け総合的に取り組む必要があることと、行政の各部署・民間・市民等を含め多様な主体で地域の将来像の共有が不可欠であるものの、共有の観点からみた地域計画の計画枠組みに関しては十分な検討がなされていないことを指摘し、地域計画を共有するための計画枠組みを構築して実務への適用性を明らかにするとともに、行政内及び市民等と地域計画の共有を促進するための方策を明らかにするという本研究の目的を述べている。

第2章「既往研究と本研究の位置づけ」では、地域計画の計画枠組みに関する研究と共有に関する既往研究を整理した上で、行政内部及び市民と地域計画の共有を図る観点から計画枠組みを課題とする本研究の位置づけを明らかにしている。

第3章「地域計画を共有する意義とそのための計画枠組み」では、本研究の基本的な考えとなる地域計画の枠組みと共有の関係について論述し、複数の主体が地域計画を推進する責任まで受け入れた状態を共有と共感という2つの概念で定義した上で、地域計画が社会的利益の増大を目的とすることから、個人に対して社会全体の利益の観点から地域計画の受け入れの判断を促すことが重要であることを指摘し、共有を促進するための計画枠組みについて、計画体系および計画プロセスの観点から諸外国の計画制度を参照しつつ明確化している。

第4章「共有のための計画枠組みの実務適用」では、第3章で提示した計画枠組みの実務への適用可能性を検証するため、都市計画マスタープラン（以下、都市マス）と都市計画道路の一体的な見直しを進めたさいたま市で、分野別計画の整合性を図る役割を持つ「都市形成戦略」を都市マスに位置づけて構築した実務事例と、道路ネットワークの再検討を進めた調布市で、段階的に技術検討と市民参画を実施する3つの並行する計画プロセスを導入して道路網計画を構築した実務事例とを考察し、これらから第3章で提案した計画枠組みが実務において適用可能であることを実証した。

第5章「地域計画と分野別計画の整合性の実態」では、分野別計画間の整合性そのものの問題に着目し、地域計画と分野別計画間の整合性の実態把握の後、総合計画、都市マス、防災及び環境に関わる分野別計画を対象に、計画書内の頻出語を多次元尺度法によって分析することで計画相互の類似性を概略的に表現することを試みた上で、都市マスと地域防災計画や温暖化対策実行計画との関係に着目して類似度が低い計画書の内容を比較し、幾つかの自治体で都市マス内の環境や防災に関する記述に具体性がなく計画間の整合性が必ずしも図られていない状況にあることを明らかにした。

第6章「地域空間評価を用いた計画の部署間共有方策」では、分野別計画間の整合性を確保するために、部局横断的な取り組みを促進する観点から多視点で施策を評価する仕組みを考察し整理した上で、相模原市において試行評価を実施し実務に適用する際の留意点を明らかにした。その際、同自治体の各部署の職員を対象としたアンケート調査により、多視点で評価することの重要性を9割以上の回答者が認識しているとの結果が得られ、地域空間評価を用いた多視点の評価を導入することによって理解の増進が可能であることを明らかにした。

第7章「計画プロセスが市民との計画の共有に与える影響」では、「3つの並行する計画プロセス」を導入して道路網計画の検討が行われた調布市を対象に、同計画プロセスを導入したことを詳細に情報提供した詳細群と概略的に情報提供した概略群をつくり、計画の受け入れ度合いの違いや計画の受け入れ度合いに影響を与える要因に関する分析を行った結果、詳細群の方が概略群よりも計画の受け入れ度合いが高いことを統計的に確認した。さらに構造方程式モデルによる多母集団同時分析を行った結果、詳細群では計画プロセスが計画内容と市民参画を通じて受け入れ度合いに影響することが示され、計画プロセスが計画内容や市民参画を下支えして各人の受け入れ度合いに影響することを明らかにした。

第8章「結論」では各章の成果を踏まえ、本研究の結論と今後の課題を取りまとめている。

以上を要するに、本論文は、今後の地域計画の枠組みについて共有概念を用いて、計画体系と計画プロセスの2つのありかたを多面的に論じたものであり、地域計画や交通計画を今後策定する上で極めて有意義な成果を挙げており、工学上貢献するところが大きい。よって、本論文は博士（工学）論文として十分な価値を有するものと認められる。

注意：「論文審査の要旨及び審査員」は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。